

「今、なぜロースクールで学ぶのか ☆列島縦断リレー☆法科大学院がわかる会 2015」

広島会場 来場者の声

(来場者1)

私は現在、法学部3年生であり、大学卒業後の進路のひとつとして法科大学院を考えていたため、今回の「法科大学院が分かる会」に参加させていただきました。

私はこれまで予備試験ルートでの司法試験突破を特に考えていましたが、今回、在學生や法科大学院出身の実務家、教員の方々のお話を聞いていくなかで法科大学院に行くことで「ひとりではできない勉強」ができるということが分かり、法科大学院ルートに大変魅力を感じました。具体的には、①法文書作成や模擬裁判、臨床法務などの実務科目によって将来、自分が実務家として働く具体的なイメージをもつことができ、さらに実務に必要なスキルを養うことができる。②教員との双方向性があるため、分からないところや疑問に思ったところを質問できたり、自分が書いた答案などを添削してもらえたりする。③同じ目標をもつ仲間ができ、その仲間と切磋琢磨することができる。以上の3点は、独学もしくは予備校の利用だけで完全に代替するのは難しいのではないかと思います。そうだとすれば、2年ないし3年間、法科大学院で学ぶのとそうでないのとでは勉強の質や人脈という点において大きく差がひらく可能性があるため、法科大学院に行く意義は大いにあると思いました。

(来場者2)

私がまず興味があったのは裁判官についてだ。個人的に、裁判官は、法曹三者の中では最も世間と馴染みがなく、どこかかけ離れた存在であると感じていた。しかし、こうして身近で接することができ、その普段の生活などもいくらか知ることができたため、良い機会であった。今回参加したことで、これから法曹、またそれに先あたっての法科大学院を目指すにあたり、具体的な勉強の指針が見え、そのモチベーションも高まり、良い刺激になった。また、法科大学院に関して、大規模で司法試験合格率も高い上位の大学に比して、小規模でさほど合格率が高くない大学でも、その学生の少なさを活かして、教員と学生が密着して指導・教育を行えるというメリットがあるということを知ることができたことも、収穫の一つである。将来進学する法科大学院を選ぶにあたって、今までは、合格率や伝統ある大学・大学院かということに重きを置いていたが、今後は小規模の大学も視野に入れていくつもりだ。